



記事を読んで、問いに答えましょう。

## 解答例

2022年3月3日朝刊

猫をかわいがる赤間徹さん。避難する飼い主と離れた犬猫の世話も続けている＝1月、福島県浪江町



飼い主不在のわが家に帰ろうと、国道114号を埋めた大型犬やチワワの群れ。原発作業員だった赤間徹さん(59)は福島県浪江町は東京電力福島第1原発事故直後、住民避難の途上で放され居場所を失った「元ペット」の姿が忘れられない。東日本大震災後に、犬や猫の保護活動が続ける原点となった光景だ。

浪江町に生まれ、18歳で作業員に。事故の7年前に原発関連の工事を社を起し、原発は生活の一部だった。2011年3月11日は福島第2原発で溶接作業中、津波の前兆となる引き潮で現れた海の底を目にした。

郡山市への避難後も、古里の動物の惨状を目にするたびに心が痛んだ。リードを付けたまま死んだり、餌をもらおうと追い掛けた車にはねられたりした犬、行き倒れた野生動物を食べて病気になる猫。 「原発のせいでこんな目に遭わせた責任を感じて」復旧作業に通う傍ら保護し、世話するように。避難先の郡山には1日のうち3時間もないかった。

## 福島 元原発作業員の献身

## 犬猫に幸せを

帰還困難区域に程近い自宅と会社を改装したシェルターで面倒を見てきた犬や猫は、11年間で千匹を超える。元の飼い主と再会を果たした猫もいれば、新たな生活の邪魔になると最後まで迎えが来ない犬もいた。現在は犬16匹と猫64匹が新しい家族を待っている。

人に慣れるまで辛抱強く関係を築いてから引き渡す。「良い物を食べさせて、良い飼い主さんに渡したい。前より悪い環境では、何のために保護したか分からない」当初、活動資金には事故の賠償金を充てていたが、今は貯金を取り崩している。最近では、わざわざ浪江まで連れてきて捨てられたとみられる動物を保護することが増えている。人間の身勝手さに落胆するも「今までの活動が無になっってしまう」と、続ける覚悟は固い。

体力的なつらさを感じる場面が増えたが、今まで頑張ってきた原動力は間違いなく保護した犬や猫だ。「私が元気なうちに『里子』に出したい」。猫をなで、ほほ笑む横顔に贖罪(しよくざい)の念を超えた愛情と決意がのぞいた。

①見出しの口に入る言葉を考え、10字以内で書きましょう。

(例)すみか追われた／わが家に帰れない／居場所を失った など

②赤間さんが11年間に面倒を見てきた「元ペット」はどのくらいの数になりますか。

( 千匹を超える(数) )

③赤間さんが「元ペット」の保護活動を続ける原点となったのは何ですか。

( (原発事故直後、)住民避難の途上で放され居場所を失った「元ペット」の姿 )

④本文の最後に「贖罪の念を超えた愛情と決意」とあります。赤間さんの「愛情と決意」がわかる本文中の記述を抜き出して書きましょう。

( 人に慣れるまで辛抱強く関係を築いてから引き渡す。／「私が元気なうちに“里子”に出したい」。前より悪い環境では、何のために保護したか分からない。人間の身勝手さに落胆するも「今までの活動が無になっってしまう」と、続ける覚悟は固い。 など )

年 組 名前